



## 循環器内科インタビュー

## 脳神経外科と循環器内科の連携

脳神経外科で専門としている脳梗塞にもいくつか種類がありますが、その中で血管が傷つくことで起きる「動脈硬化」は、私たち循環器内科が専門にしている「心筋梗塞」と病態が似ています。多くの場合、どちらの患者さんにも高血圧や糖尿病、喫煙習慣といった背景となる原因があり、血管がだんだん傷んで心臓や脳に影響してしまいます。血管というのは、先に行くほどだんだん細くなります。細い部分というのはやはり傷つきやすく異常が出やすいのです。そのため、心臓が悪くなって治療していたら脳の異常も見つかったというケースもありますし、またその反対もあります。血管の病気を診ているという点では、脳神経外科と循環器内科はお互いをよく理解し合い、協力し合う関係と言えます。

両科の連携で多い例は、脳梗塞の原因を調べていたら心臓の壁に穴が開いていて、その穴から血栓が脳に行ってしまうというケースや、心房細動という不整脈の影響で心臓内にできた血栓が脳に飛んで行ってしまうケースです。こういったケースでは、穴を塞ぐためのカテーテル治療を循環器内科で受け持ちますので、両科でのコラボレーションが必要になります。私自身カテーテル治療に特に力を入れており、先ほどの心臓の穴をふさぐ治療や、心臓内の血栓がでやすい

部位を閉鎖したり、心臓の逆流防止弁を新しいものに変えるなど患者さんに合った治療ができるよう、様々な術式に対応しています。ほかにも、不整脈治療ではカテーテルアブレーションの症例数も増えているなど、苗村医師の言う「充実した循環器内科」へ着実に成長しています。

さらに、心筋梗塞など1分1秒を争う中で、迅速に命を救うという体制が築かれているのが当科の強みです。循環器内科は急性期治療がととても重要ですので、万全の体制づくりには力を入れています。

このように当院では、循環器系の治療が充実しており、地域の先生からのご紹介も受けやすくなっています。脳神経外科との連携も含めて、お気軽にご相談ください。

## ・循環器内科 医師紹介・



阿佐美 匡彦 医師

科長  
SHDセンター長

## 医療機関からの予約申し込み・お問い合わせ

診療のご予約・地域連携に関するご意見は、地域連携室へ電話または、FAXにてご連絡ください。

TEL 03-3864-7900 FAX 03-3864-7901

受付時間 平日8:30~17:00(土曜日8:30~12:30 第2土曜日・日曜日・祝日はお休みさせていただきます。)

※受付時間外及び、日・祝日のFAXでの受付分は、翌営業日にできるだけ早急に返事をさせていただきます。

※患者さんからの直接のご予約は予約センターにおかけください。

TEL:0120-86-3212

## 外来受診の共通事項

- 完全予約制(初診・再診)です。
- 紹介状(診療情報提供書)をご用意ください。

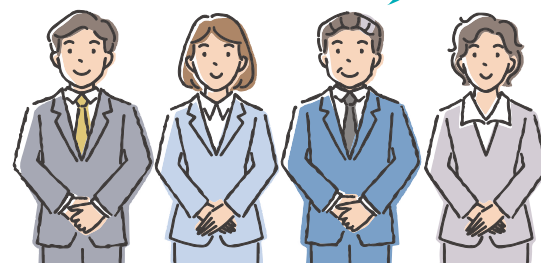


社会福祉法人

三井記念病院

〒101-8643 東京都千代田区神田和泉町1番地 TEL:03-3862-9111(代表)

https://www.mitsuihosp.or.jp/

三井記念病院  
ホームページぜひ  
ご紹介ください!

## 地域連携通信

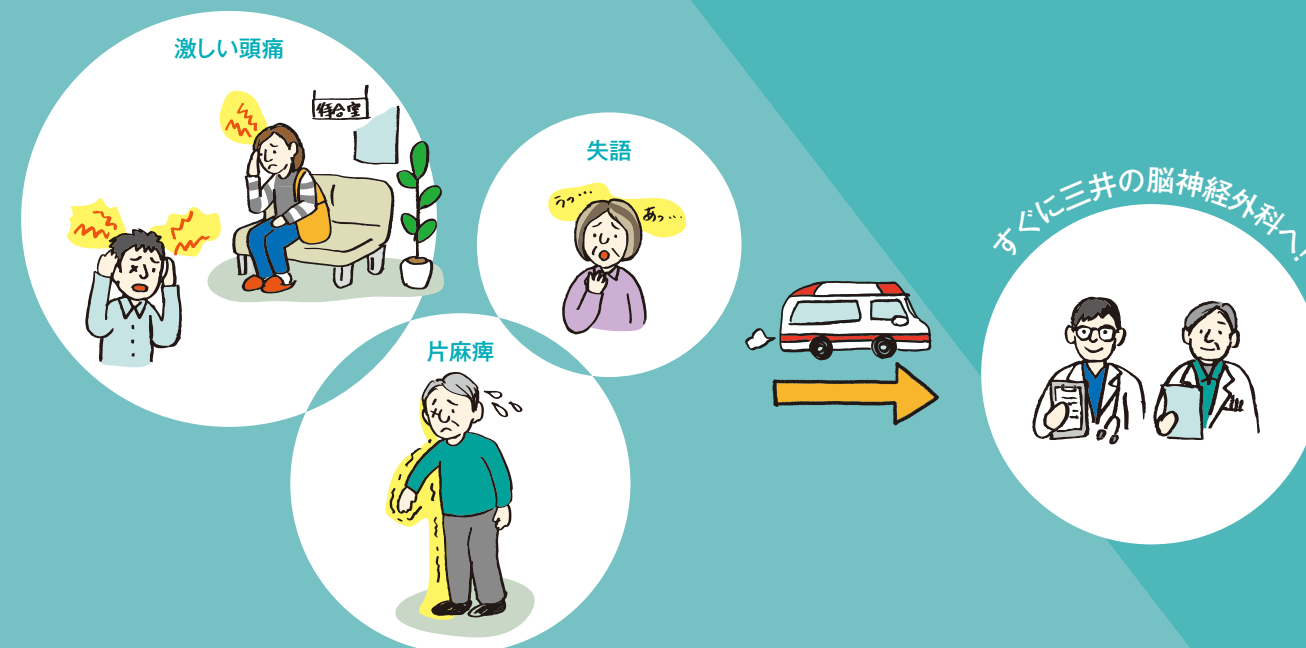
## 特集 脳神経外科

体制を一新、  
救急の受け入れも強化

脳や脊髄、神経に関する疾患について専門的に扱う脳神経外科。脳卒中や脳腫瘍などを対象とし、外科手術や血管内治療を行います。

三井記念病院では2023年4月より脳神経外科の体制を一新し、「神経血管圧迫症候群」と「脳血管内治療」そして「開頭手術」を三本柱として治療を行っています。開頭手術と脳血管内治療の両者が可能になったことで、脳血管障害に対してより適切な治療法を提案・提供すると共に、同一施設内で治療を完了することができるようになりました。

また、急患の対応についても体制を整備。原則、平日夜間には当直医を置き、休日深夜はオンコール体制とすることで、急患や重症者の受け入れも可能になりました。激しい頭痛や失語、片麻痺など、脳神経関連の病気が疑われる場合は、迷わずご連絡ください。



## スタッフを増強し 脳神経外科のレベル強化へ

三井記念病院の脳神経外科では、10年以上前から脳卒中への対応をはじめとする救急体制の構築・地域医療への貢献を目指しておりました。しかし、前体制までは達成できておらず、私が2022年11月に赴任、2023年4月に部長に就任し、上記体制確立という課題解決にあたりました。医師3名という理想とは程遠い状況からのスタートではありましたが、体制強化に向けて、地道に粘り強く、人員増強や院内環境の整備等を行っていきました。その甲斐あって、2024年4月からは7人体制にまで人員が増強され、受け入れることのできる患者数は増えています。現在、平日（木曜日を除く）は専門医6名で終日救急対応が行える体制を構築し、平日夜間は脳神経外科単独で当直医を置くなど、着実に対応力が向上しています。

当院は、循環器系が非常に充実している病院ですので、脳神経外科もそれに並ぶ高いレベルを目指しています。

私自身は初期研修のころから脳卒中や頭部外傷といった緊急性の高い重傷患者を多く診て経験を積んできました。現在は良性脳腫瘍を自分の中で一つのテーマとして取り組んでいます。

## 血管内治療と開頭術 選べる治療法

脳神経外科には大きく分けて二つの治療法があります。一つが血管内治療、もう一つが開頭術です。血管内治療、いわゆるカテーテルは、血管の中から頭の内部を治療できるので患者さんの身体的負担が少なく傷跡も小さいです。また、入院期間も短期間で済ませることができます。一方、開頭術は、脳動脈瘤の治療に関して言えば、圧倒的に再発リスクが低く抑えられるのがメリットであり、また腫瘍は開頭術でないと摘出できません。どちらの方法にも長所短所があるのですが、その両方に対応できる点は当院の強みです。

開頭術というと大きく傷が残るのでは、という不安があるかと思いますが、数ヶ月程度で傷跡はかなりわかりづらくなり、1年も経つとほとんど分からなくなる方が多いです。治療法については丁寧に説明しながら、患者さんに寄り添う形で選択できることを強調しておきたいです。

## 見極めが難しい「麻痺」や「目の異常」 迷ったら脳神経外科へ

脳神経外科で診る患者さんの代表的な症状は「頭痛」そして「麻痺」です。一口で「麻痺」といってもいろいろありますが、脳の問題で生じている麻痺には特徴があります。脳は右側と左側が解剖学的にも血管支配的にも明確に分かれているため、問題が生じるのは体の右か左のどちらかだけ、ということがほとんどです。左右両側に麻痺がある場合は脳ではなく脊髄が原因である可能性を疑います。

また脳神経外科で扱う病気の代表例としては脳卒中がありますが、この脳卒中特有の症状として挙げられるのが、一時的に目が見えなくなる「一過性黒内障」です。首の血管である頸動脈にプラークが溜まって細くなり、そのプラークが目目の血管に飛んで詰まらせたり、目の血管の血流が悪くなったりすることで視界が真っ暗になるのです。両目ではなくて片目だけ、30分から1時間くらいで見えるようになることが特徴です。目の異常だからということで眼科に行く患者さんも多いのですが、実は脳神経外科の領域です。



脳卒中にはもう一つ関連する症状として、言葉がうまく出てこない現象があります。いわゆる「失語」です。本人は頭で理解しているのに言葉として発することができないという場合や、そもそも理解ができておらず会話も成立しない場合もあります。様々な症状がありますが、どこまでを「脳の症状」としてとらえるかは判断が難しいことも多く、難聴で耳鼻咽喉科を受診した患者さんが聴神経腫瘍だったというケースもあります。視力や聴力などの検査を行っても原因がわからないと言う場合は、脳神経に関わる可能性があることも念頭に置いていただければと思います。

## 他科との連携を強みとして より良い医療を提供

手術前の耐術評価や脳梗塞後の病型診断では、他科、特に循環器内科と連携をとっています。脳梗塞の診断においては「どういう原因で起きたか」という型を決めることが非常に重要です。この原因を調べるのが難しいという側面もありますが、当院は循環器内科が非常に充実しているため、細かな検査を実施し、原因を解明したうえでその後の治療につなげることができています。循環器内科とはその他にも、心筋梗塞など血管系の問題を抱えている患者さんが、各種超音波検査の結果、頭や首の血管も細くなっていることがわかり、脳神経外科での治療が必要に



なるというケースもあり、様々な場面で協力しながら診療を行っています。

繰り返しになりますが、特にお伝えしたいのは、体制も人員も大幅に強化され、三井記念病院脳神経外科は以前とは大きく変わったということです。緊急の患者さんも積極的に受け入れ、相談にも応じたいと考えています。結果的に脳神経外科の症状ではないこともあるかもしれませんが、まずは当科にご連絡ください。地域の先生とも連携しながら、患者さんにとってより良い医療を提供し続けたいと思います。

### 脳神経外科 医師紹介



苗村 和明 医師  
部長

### 脳神経外科の診療範囲

良性脳腫瘍	髄膜腫、神経鞘腫、頭蓋底腫瘍など
脳血管障害	脳動脈瘤、頸動脈狭窄・閉塞症、頭蓋内動脈狭窄・閉塞症、脳動脈解離、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、海綿状血管奇形、成人もやもや病など
神経血管圧迫症候群	顔面痙攣、三叉神経痛、舌咽神経痛など

### 脳神経外科外来診察表



左記の二次元コードを読み込んでもらうことで、各曜日の脳神経外科外来診察の担当医を確認することができます。